

I 研究の目的 東京都における就学前施設と小学校の接続の現状と課題

小学校における幼稚園・保育所等との交流について

- 児童と幼児の交流活動 **94.1%**
- 就学前施設との合同研修会・研究会の交流 **23.8%**

(「令和元年度 教育課程編成・実施状況」東京都教育委員会 令和元年)

スタートカリキュラム編成・実施に向けた研修会・協議会の実施状況について

- 就学前教育と小学校教育との円滑な接続に向けた連携の取組
 - ・ スタートカリキュラムの編成 **86.4%**
 - ・ スタートカリキュラム編成に向けた就学前施設との合同研修会や協議会 **38.7%**

(「令和3年度 教育課程編成・実施状況」東京都教育委員会 令和3年)

幼児期の教育と小学校の円滑な接続の段階について

ステップ0	連携の予定・計画がまだ無い段階
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ検討中の段階
ステップ2	年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施はまだ行われていない段階
ステップ3	授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施の段階
ステップ4	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている段階

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 令和3年2月

- ・ 東京都では、幼児・児童の交流活動を実施している園・小学校の割合が高い。
- ・ 資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が十分に行われていない。
- ・ 交流活動を実施している園・学校が高い割合を示す一方で、円滑な接続の段階(ステップ)としては、ステップ2までの段階の園・学校が多い。
- ・ 交流活動実施について、地域格差がある。

そこで、就学前教育と小学校教育の互いの教育理解や円滑な接続につながるような、互惠性のある交流とするために、様々なステップで活用できる「交流活動シート」の開発及び交流活動シート作成の手だてとしての説明資料を作成した。

交流活動シート作成への願い

- ・ 東京都の中でも地域によって交流活動・接続への差がある。この交流活動シートの活用が就学前施設と小学校との交流のきっかけになったり、効率的に話し合うための手順になったりしてほしい。
- ・ 担当する保育者・教員が変わっても、継続的に誰もが取り組めるようにしたい。
- ・ 就学前施設と小学校のどちらかが主導するのではなく、互いに教育者として同じ立場で交流について考えられるようにしたい。

互いの教育理解

- 交流の流れや手順、指導方法及び教員間の思いを共有する。
- 交流活動の中で、目指す幼児の姿や援助について記載し、振り返ることで、幼児理解・児童理解を深める。
- 更なる交流の充実と促進を図る。
- 教員の資質向上、教育の充実化を図る。

II 互いの教育理解を深めるための資料の開発に向けて

1 開発した交流活動シートの特徴について

就学前施設と小学校の交流活動を実施するに当たり、子供の姿を通して保育者と教員が互いの教育理解を深め、就学前教育と小学校教育の円滑な接続につなげていくためのシートである。

○ シート1枚で互いの教育を可視化

就学前施設と小学校が同じシートに記入する形式とし、シート1枚で交流活動の流れや互いの指導や援助、環境の工夫について可視化できるようにした。どちらかの校種が主導で計画・実施するのではなく、計画の段階から同じ立場で共に考えていくことができる。

○ 互いの教育理解を深めるための工夫

目指す幼児・児童の姿を具体的に示すことで、互いの教育のねらいや目指す幼児・児童の姿、指導・援助の意図等がイメージしやすくなる。また、交流活動を通して保育者・教員による幼児・児童への手だてとともに、幼児・児童の姿を振り返りの視点として設定し、互いの教育理解の手掛かりとすることができる。各校種の教育の方法や言葉の相違によるつまづきをなくすために、共通理解しやすい項目の設定をしている。

○ 幼児と児童の交流活動の現状・課題に対応する工夫

これまで、打ち合わせや準備の時間が十分にとれない就学前施設と小学校においても、本シートと活用例があることで、効率的に話し合うことができるようになってきている。また、これまで交流活動の実施が少なかった園や学校が、交流活動を始めるきっかけとすることが可能である。

2 ステップごとの交流活動シート活用例

交流活動の取組の段階(ステップ)に応じた活用例を示した。段階的に活用例を示すことで、様々な地域の実態に応じて活用できるようにした。

(1) ステップ0・ステップ1における活用例

年長児と5年生(6月)
「はじめまして、
いっしょにあそぼう」

交流の機会が少ない就学前施設と小学校が交流する場面を想定しています。場面ごとの保育者・教員の役割を中心に記入した活用例です。

(2) ステップ2における活用例

年長児と2年生(12月)
「おもちゃランドへようこそ！」

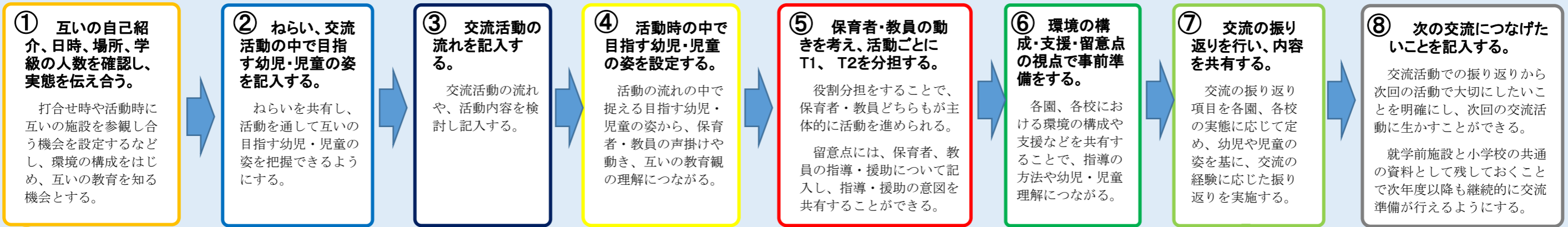
交流活動の中で、保育者・教員の役割を基に、留意点や環境の構成について具体的に記入した活用例です。

(3) ステップ3以上における活用例

年長児と1年生(10月)
「あきとなかよしだいさくせん！」

交流活動シートを活用して数回交流をしたことを想定したものです。ステップ2より教員の役割や留意点を具体的に記載し、「交流の振り返り」の欄では、前回の交流からの変容や次回交流につなげたいことを記載した活用例となっています。

Ⅲ 交流活動シートの活用手順 (例)「はじめまして、いっしょにあそぼう」(年長児と小学5年生)



1 交流活動シート 6月〇日 午前〇時 ~ (場所: 〇〇小学校体育館)

〇〇園 〇組 〇名	6月〇日()〇時	〇〇小学校 5年〇組 〇名
2 年長と一緒に遊ぶ中で安心感や親しみの気持ちをもつ。 〇今後の交流への期待感をもつ。	活動名 「はじめまして、一緒に遊ぼう」	ねらい 〇家族や地域の人々とよりよい関わりについて考え、工夫する。 〇幼児の関わり方を学び、関わることを通して自己有用感をもつ。
5年生と一緒に遊ぶのって楽しいな。 声を掛けてもらったり、優しくされたりして嬉しかったな。 5年生のお兄さん お姉さんと、また一緒に遊びたいな。	目指す幼児・児童の姿	楽しんでくれるか心配だったが、楽しそうに嬉しかったな。 役に立てたな。慕ってくれて嬉しいな。 また一緒に遊びたいな。
6 T2の役割を小学校の教員と相談して決める。 打ち合わせ時に決まった、交流の中で遊ぶ手遊びを事前の保育の中でも親しんでおく。 〇5年生と一緒に遊ぶことを楽しみにできるよう、交流する日時や内容を幼児にわかりやすく伝えておく。また、幼児が安心して5年生との出会いを楽しんだり親しみをもって関わったりできるように、事前にペアリング等(グルーピング)をしておきペアの名前やマークを知らせておく。	交流までの事前準備 ★環境の構成 ◇支援・留意点 〇準備物 ペアリング・絵本・手作り名札・名簿・記録用カメラ	★事前に児童主体でその日に行う遊びを決めて遊びを体験しておく。 ◇ 事前に手遊びに親しんでおく。 ◇ 「交流活動シート」に活動を記入したものと記入例を打ち合わせ人数分用意し、児童が主体的に関わるように打ち合わせを行う。 ◇ 事前に名前などを伝え、ペアリング(グルーピング)し期待感や安心感もたせるようにする。 〇共通の名札などを作成し、当日に期待がもてるようにする。 ◇ 絵本の読み聞かせを安心してできるように、絵本を選び、練習する。

就学前施設と小学校との交流活動の回数や交流活動の経験に応じた振り返りが行えるように、振り返る視点や項目を記載している。交流活動が充実している就学前施設と小学校間では、3つの資質・能力の視点や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに行うことで、交流活動の中での幼児・児童の姿からどのような学びが表れていたかを就学前施設と小学校とで共有することができ、互いの教育理解につながる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 〇健康な心と身体 〇自立心 〇協同性
- 〇道徳性・規範意識の芽生え 〇社会生活との関わり
- 〇思考力の芽生え 〇自然との関わり・生命尊重
- 〇数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 〇言葉による伝え合い 〇豊かな感性と表現

資質・能力の3つの視点

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

5 留意点 T1・T2の役割 幼児・児童と挨拶し、交流活動を幼児が楽しんでいる様子や、これから始まる交流の楽しい雰囲気作りを行う。	4 目指す幼児の姿の例 これから5年生と一緒に遊ぶことを楽しみに、教師や児童の話に聞き入っている。	3 交流活動の流れ 1. あいさつをする。	4 目指す児童の姿の例 笑顔で接している。 互いの視線を合わせている。 *寄り添うように読み聞かせ
7 交流活動の振り返り □ 幼児・児童の様子やつぶやき □ その後の様子 □ 交流して良かった点 □ 資質・能力(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とのつながり) □ 互いの指導を見て感じたこと、保育者・教員の気付き □ 成果と課題 等	8 次の交流につなげたいこと ・ 来年度の交流に引き継げるようする。	7 交流活動の振り返り ・ 幼児「遊んでくれた5年生が楽しかった。また遊びたいな。」と、グループの振り返りで話している姿から、交流が楽しかったことがわかる。 ・ 児童の振り返りカードから、「準備は大変だったけど、名札も喜んでくれて、楽しく遊んでいたの、やってよかったと思いました。来年は6年生なので、入学してくるのが楽しみです。」という記述があったり、交流活動を通して、次年度以降の活動に期待をもつ姿が見られた。 ・ 保育者の優しい声掛けや、共感するうなずきなど近くで関わり方をみることができてよかった。 ・ 育てたい姿の「言葉による伝え合い」の視点で振り返ると、5年生との触れ合いを通して、自己紹介をしたり、話を聞いたりする力が育ってきていることが感じられた。	8 次の交流につなげたいこと ・ 来年度の交流に引き継げるようする。

Ⅳ 成果

- ・ 「交流活動シート」の作成
就学前施設と小学校との交流活動の中で、幼児・児童の姿を通して互いの教育方法や教育理解につながるシートを開発することができた。
- ・ 就学前施設と小学校との接続状況に応じた「交流活動シート」の活用方法の提示
就学前施設と小学校との接続状況に応じた活用方法を提示し、接続状況に応じて互いの教育理解が深められる資料を開発することができた。

委員名簿

江東区立第三大島幼稚園	園長	貞方 敦子	世田谷区立給田幼稚園	主任教諭	鶴澤 知子
福生市立福生第三小学校	主幹教諭	佐藤 真琴	荒川区立汐入こども園	主任教諭	井村 果奈枝
中央区立久松小学校	指導教諭	関澤 里織	練馬区立田柄第二小学校	主任教諭	上原 妙子
品川区立浜川幼稚園	主任教諭	渡辺 理奈	西東京市立栄小学校	主任教諭	嶋津 絵里生